

「冬の都市環境問題小委員会」アンケート調査結果（概要）

問1. 各都市のあらましについて

	カナダ	中国						エストニア	グリーンランド	韓国	ロシア			米国	日本	
	プリンスジョージ	長春	ハルビン	ジャムス	鶏西	チチハル	瀋陽	マールドゥ	ヌーク	太白	ノボシビルスク	ユジノ・サハリンスク	マガダン	アンカレッジ	青森	札幌
8月の平均気温(°C)	14.8	-	24.5	-	21.7	21.4	24.1	17.0	6.3	21.5	14.0	17.2	11.5	13.5	23.0	22.0
2月の平均気温(°C)	-5.4	-	-18.0	-	-17.3	-9.7	-10.9	-9.0	-11.8	-2.7	-17.3	-10.0	-16.0	-7.1	-1.1	-3.5
年間総降水量(mm)	601	522 ~615	478	-	6,506	372	822	559	1,450	1,226	425	840	526	408	1,290	1,100
年平均積雪量(mm)	216	-	-	-	-	-	-	1,500	2,500	825	95	350	210	1,765	7,740	4,960
人口(千人)	80	7,240	9,700	-	2,000	5,610	699	17	15	53	1,406	181	99	278	320	1,880
面積(km ²)	316	20,571	53,000	-	22,531	42,469	12,980	26	105,000	304	506	-	2,950	5,083	825	1,121

問2. 会員都市における環境問題とは

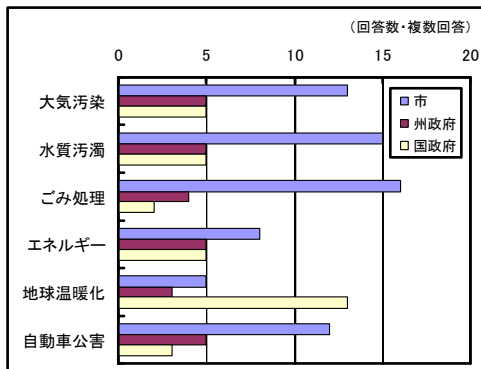
◆各都市において課題となっている環境問題について

項目		重要な課題としている都市	そのうち最も深刻としている都市
○大気汚染関係	工場等からの排出ガス	13	4
	自動車からの排出ガス	14	5
○水質汚濁・土壌汚染関係	生活排水の処理	15	8
	工場等からの排水	12	3
○ごみ処理関係	河川の水質管理	12	2
	家庭ごみの処理	12	1
	企業・工場から排出される廃棄物の処理	11	2
	廃棄物のリサイクル	13	5
	廃棄物の不法投棄防止	11	1
	ごみの減量	11	5
○省エネルギー関係	省エネルギーのための技術向上	14	5
	省エネルギーのためのライフスタイルの普及	14	3
○自然・緑関係	自然環境の保全	16	5
	市街地や公園などの都市緑化	13	3
○環境教育	青少年を含めた市民への環境教育の普及	13	5
	地域で環境保全を担う人材の育成	10	2
○地球温暖化関係	二酸化炭素排出量の削減対策	11	3
○自動車排気ガスの抑制	自動車排気ガスの抑制	15	7

環境問題を大気汚染、水質・土壌汚染、ごみ問題、省エネルギー関係、地球温暖化対策、自動車公害等について区分すると、全ての項目について課題が分散している結果となった。各会員都市は、様々な環境問題を同時に抱えているということがわかる。

問3. 今後取り組むべき環境対策の状況

◆環境問題について、具体的な対策を主に行っている行政機関（市・州政府・国）について



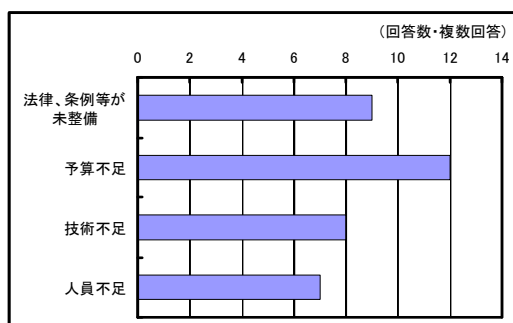
ほとんどの項目で市に責任があるという回答が多く見られた。一方、地球温暖化については国の責任としている都市が多く、中でも中国の6都市は全て、国に責任があるという回答だった。

◆今後取り組むべき重要な課題や環境施策について

項目		回答数
○大気汚染関係	工場等からの排出ガス	12
	自動車からの排出ガス	13
○水質汚濁・土壌汚染関係	生活排水の処理	15
	工場等からの排水	15
	河川の水質管理	13
○ごみ処理関係	家庭ごみの処理	14
	企業・工場から排出される廃棄物の処理	13
	廃棄物のリサイクル	14
	廃棄物の不法投棄防止	15
○省エネルギー関係	省エネルギーのための技術向上	11
	省エネルギーのためのライフスタイルの普及	13
○自然・緑関係	自然環境の保全	15
	市街地や公園などの都市緑化	14
○環境教育	青少年を含めた市民への環境教育の普及	14
	地域で環境保全を担う人材の育成	10
○地球温暖化関係	二酸化炭素排出量の削減対策	9
○自動車排気ガスの抑制	自動車排気ガスの抑制	14

問2（現状の課題）と同様に、全ての項目について回答が分散する結果となったことから、多くの都市が、現状の課題について解決を望み、それに向けての取り組みたいと考えていることがわかる。韓国の太白市からは、これまでは、生活排水による河川の水質汚濁やごみ問題への対策に集中的に取り組んできたが、今後は、次世代エネルギーの活用についての技術導入を検討したいというコメントがあった。

◆今後取り組むべき環境問題の解決に向けて、障害となっていること



ほとんどの都市が、解決に向けての障害について、予算不足と回答した。また、その他の障害として、環境配慮行動に対する市民・事業者の理解不足という回答もあった。

問4. 地域における環境問題への対応

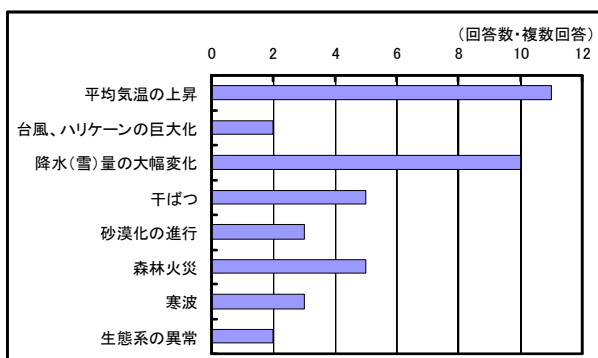
◆公害問題について、具体的な対策を主に行っている行政機関（市・州政府・国）について

項目	回答数		
	市	州政府	国政府
公害対策に関する法令・計画等の策定			
法令、条例等の制定	10	8	11
具体的な実行計画等	16	3	2
公害発生の可能性のある施設の設置に関する許可など			
ばい煙、粉じん発生施設等の設置許可	9	4	7
騒音、振動発生施設の設置許可	11	1	6
吹きつけアスベスト除去の工事許可	6	0	4
公害の監視や企業への指導			
大気汚染、地下水質等の常時監視の実施	11	7	4
企業や工場への立ち入り検査や指導の実施	11	7	7
市民や企業に対する公害対策の普及啓発			
市民を対象とした公害対策の普及啓発	13	6	7
企業を対象とした公害対策の普及啓発	13	6	6

全体をとおして市に責任があるという回答が多く見られたが、項目によっては州政府や国政府と回答する都市も多くあった。また、特に普及啓発については、それぞれが分担して実施しているという都市が多かった。

問5. 地球規模である環境問題への対応

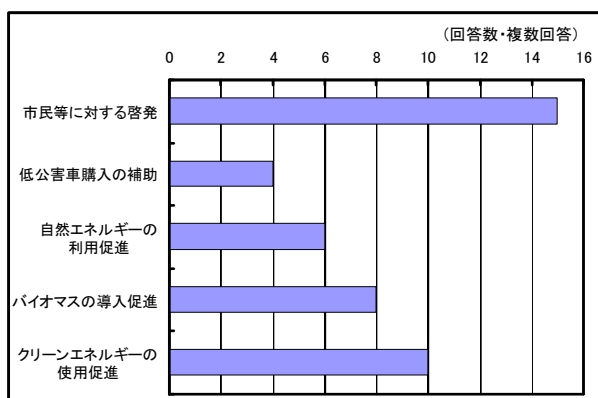
◆地球温暖化の進行に伴って報告されている異常気象について、各都市で実感できるもの



平均気温の上昇や降水量の大幅な変化をあげている都市が多くあり、世界中で異常気象が確認されていることがわかる。

アメリカ合衆国のアンカレッジ市からは、気温上昇が原因と考えられるヤツバキクイムシの大量発生について、韓国の太白市では、春先に中国北部の砂漠地帯から黄砂が飛来し、生活に影響が出ているという報告があった。

◆地球温暖化対策として各都市が実施している事業について



ほとんどの都市が、省エネやリサイクルの推進といった市民等に対する啓発をあげている。

また、クリーンエネルギーの利用促進を進める都市も多く、例として、水力発電や埋立地から発生するメタンガス、家庭から出る廃食油を活用したバイオディーゼルの生産などがあげられた。

問6. 環境対策の推進体制

◆民間企業との連携事例（抜粋）

- ・非営利企業「グリーン・スター」と連携し、資源の再利用、再生及び省エネを推進している。また、民間企業と協力し、再生資源の（地域）市場開拓を模索している（アメリカ合衆国・アンカレッジ市）
- ・グリーン企業の創立活動の支援を展開し、グリーン生産活動をチェックし、ISO14001 認証などの活動を通じて企業の環境保護活動を促進している（中国・長春市）

◆市民団体との連携事例（抜粋）

- ・環境問題への意識向上のため、スチュワードシップグループと連携し、子どもや大人を対象とした教育の機会を提供している（カナダ・プリンスジョージ市）
- ・大学が中心となって「グリーン黒龍江大学生連盟」を設立し、環境に配慮したサマーキャンプや田舎で環境保護教育活動を行う「黒龍江グリーン使者」などのイベントを実施した。（中国・ハルビン市）
- ・市民・事業者・行政の自発的な参加による協働組織「環境あおりネットワーク」を設立し、三者連携のもと、主に生ごみのリサイクルや環境教育の活動を展開（日本・青森市）

◆環境教育の事例（抜粋）

- ・市民に協力を呼びかけ、その寄付により 12,200 本の木を植樹した。また、買い物の際は自分の買い物袋を用意する運動や、廃電池回収運動などを行っている（中国・ハルビン市）

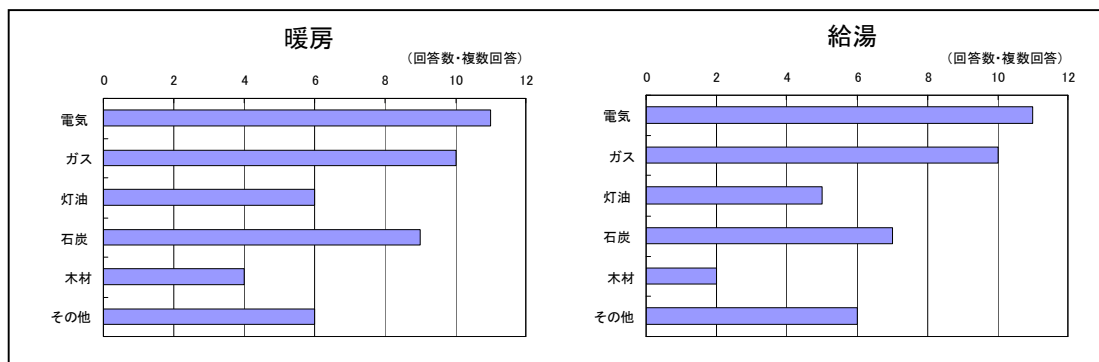
- ・小中学生を対象に、環境保護の知識についてのコンテスト、撮影大会、弁論大会、サマーキャンプなどの活動を行っている（中国・瀋陽市）
- ・学校教育指導の方針と重点事項に“環境教育の充実”を掲げ、学校の教育活動全体を通して系統的に環境教育が行われるよう、学校に働きかけを行っている（日本・青森市）

問7. エネルギー使用について

◆家庭における暖房・給湯の主な燃料について

暖房・給湯とも、一番多いのは電気、続いてガスという結果であった。中国・韓国・ロシアの都市では、石炭という回答も多く見られた。

また、一般住宅の主な構造としては、煉瓦造、鉄筋コンクリート造、木造が多く、暖房効果を上げるための対策として、断熱材、二重窓、ペアガラス窓、床暖房が多く普及していることがわかった。



◆市民が日常的に実施している省エネ行動について

どの項目についても比較的多くの回答が得られ、市民が日常的に省エネ行動に取り組んでいることがうかがえる。

項目		回答数	項目		回答数
居間	使っていない部屋の明かりを消す	15	台所	冷蔵庫の詰めすぎや扉の無駄な開閉を控える	11
	テレビを見ていないときは、主電源を切る	13		食器は余分な汚れを拭き取ってから洗う	5
	服をもう一枚着るなどして、暖房を節約する	8		食材は無駄なく買って使い切る	11
	外気や太陽光を室温調整に利用する	9		魔法瓶などの保温器具を上手に利用	8
洗面室・浴室	洗濯はまとめて洗いをする	13	自動車利用	ごみの分別をする	9
	風呂の残り湯を有効に利用する	5		駐車中はエンジンをつけたままにしない	11
	入浴時や食器洗いの時など節水に心がける	10		車の運転時には急ブレーキ、急発進をしない	7
買い物等	使い捨て商品を購入しないなど、ごみ減量に努める	9	車のエアコンの使用を控える	8	
	買い物ではお店の袋を使わずに、自分の買い物袋を用意する。	8	自動車の使用を控え公共交通を利用する	9	
	リサイクル品などの環境に優しい商品を購入する	8			
	省エネルギーに配慮した製品や環境に配慮した低公害な車を購入する	10			

◆乗用車の保有台数

どの都市においても乗用車は広く普及しており、特に、アメリカ合衆国・日本の都市では、2人に1台以上の割合で保有している。

	カナダ	中国						エストニア	グリーンランド	韓国	ロシア			米国	日本	
	プリンスジョージ	長春	ハルビン	ジャムス	鶏西	チチハル	瀋陽	マールドゥ	ヌーク	太白	ノボシビルスク	ユジノ・サハリンスク	マガダン	アンカレッジ	青森	札幌
乗用車登録台数	-	300,000	300,000	100,000	1,000,000	-	-	7,000	2,500	12,000	350,000	72,000	36,549	200,000	200,000	1,000,000
市民一人あたりの乗用車保有台数	-	0.04	0.03	-	0.50	-	-	0.42	0.17	0.23	0.25	0.40	0.37	0.72	0.63	0.53